

科目名	木構造	英語科目名	Design of Timber Structures
開講年度・学期	平成22年度・後期	対象学科・専攻・学年	建築学科5年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	1単位	単位種類	学修単位B(30+15)h
担当教員	川上勝弥	居室(もしくは所属)	建築学科棟1階
電話		E-mail	
授業の達成目標			
1. 必要な軸組長さを求め、それをバランス良く配置することができる。 2. 圧縮材、引張材および曲げ材の断面算定ができる。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標の 1 及び2に対し、中間試験および期末試験の成績並びに提出レポートの内容を設定水準で評価し、60%以上の成績で評価する。			
評価方法			
評価は、次の3項目の加重平均により行う。 1. 中間試験(30%) 2. 期末試験(50%) 3. 提出レポート(20%) 試験には建築基準法法令集、電卓の持ち込みを認めるが、参考書、携帯電話、ノート、メモ等の持ち込みは認めない。			
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間
1. 木構造とは一木質構造、軸組構法(1週)	軸組構法についてまとめる		1
2. 木質構造の法的規制一建築基準法(1週)	木質構造の規定についてまとめる		1
3. 木造建物の特徴(1週)	伝統的な木造建物の部材名称について		1
4. 軸組一壁量、壁倍率、保有耐力(1週)	軸組の種類と壁倍率についてまとめる		1
5. 軸組の配置(1週)	平面図に規定量の軸組を配置する		1
6. 軸組計算一偏心率、4分割法(1週)	平面図より偏心率及び4分割法による検討を行う		2
7. 木材の特徴と許容応力度(1週)	構造に使用する主な木材の特徴についてまとめる		1
8. (後期中間試験(1週))			—
9. [後期中間試験の答案返却・解説]、 引張材一引張部材、許容応力度(1週)	引張材の応力、引張許容応力度を求める		1
10. 引張材の計算(1週)	引張材の計算を行い安全性について検討する		1
11. 圧縮材一圧縮部材、許容応力度(1週)	圧縮材の応力、圧縮許容応力度を求める		1
12. 圧縮材の計算(1週)	圧縮材の計算を行い安全性について検討する		1
13. 曲げ材一曲げ部材、許容応力度(1週)	曲げ材の応力、曲げ許容応力度を求める		1
14. 曲げ材の計算(1週)	曲げ材の計算を行い安全性について検討する		1
(後期期末試験)			
15. [後期期末試験の答案返却・解説]、 接合部の計算(1週)	木構造における接合の安全性について検討する		1
自学自習時間合計			15
キーワード	軸組、偏心率、許容応力度、引張材、圧縮材、曲げ材、耐震診断		
教科書	特になし。必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	日本建築学会「木質構造設計規準」、日本建築学会 杉山英男編著「木質構造」、共立出版		
小山高専の教育方針①～⑥との対応		④	
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-2)(C-2)			
JABEE 基準1の(1)との関係		(d(2-d))	
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目		建築一般構造、建築材料、建築構造力学	
現学年の関連科目		建築法規、建築施工	
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
1. 授業は、講義を中心に行うが、適宜行う演習問題の解答状況から、学習の達成度を確かめる。 2. 授業には、建築関係法令集(本校、建築法規で使用する教科書)および電卓を必ず持参すること。			
シラバス作成年月日	平成22年3月10日		